

レゼポペ 来日公演

フランスの古楽グループが贈る、17世紀フランスの雅な宮廷歌曲の世界!

PROGRAMME

Les Épopées

セバスティアン・ル・カミュ
Sébastien Le Camus (1610-1677)

夜のまま

Laissez durer la nuit

ジャン=アンリ・ダングルベル
Jean-Henry d'Anglebert (1629-1691)

組曲ト長調

Suite en sol

ジョゼフ・シャバンソー・ド・ラ・バル
Joseph Chabanceau de La Barre (1633-1678)

羊飼いたちよ、草の上へ

Allez bergers, dessus l'herbette

オノレ・ダンブリュイ
Honoré d'Ambruis (1600年代後半に活躍)

私たちの森の甘い静けさ

Le doux silence de nos bois

マルカントワーズ・シャルパンティエ
Marc-Antoine Charpentier (1643-1704)

火のそばで愛し合おう

Auprès du feu, l'on fait l'amour

泉のほとり

Au bord d'une fontaine

マラン・マレ
Marin Marais (1656-1728)

シャコンヌ

Chaconne

セバスティアン・ル・カミュ
Sébastien Le Camus

私は平穏な日々を過ごした

Laissez durer la nuit

ジャン=バティスト・リュリ
Jean-Baptiste Lully (1632-1687)

岩よ、お前は耳が聞こえない

Rochers vous êtes sourds

イタリア人の嘆き

Plainte de l'Italienne

ミシェル・ランベール
Michel Lambert (1610-1696)

楽しもう、甘い安らぎを

Goûtons un doux repos

声楽カンパニー「レゼポペ(=叙事詩)」の名は、今日でも私たちの想像力をかきたてる英雄物語のもとに由来しています。指揮者のステファン・フージェ率いるこのアンサンブルは、楽譜の枠にとらわれない豊かで感動的な音楽の旅を紡ぎます。

実際、楽譜は単なる枠組みであり、だまし絵のようなものです。バロック歌曲の旋律は豊かな装飾に彩られていても、基本的には朗読的なものであり、その解釈は楽譜以上のものでなければなりません。これを実現するために、声楽パートは多くのわずかな間と小さな抑揚で音楽の線を豊かにすることによって歌詞を引き出しています。もはや音程ではなく、朗読の抑揚なのです。

このようにして言葉は自由を与えられ、歌詞が前面に出てきて突然理解できるようになるのです。より親しみやすく、歌の情感によって自由に伝えられ、聴き手の心に直接届くようになります。完全に現代的で音響的な結果は驚くべきものであり、印象的であり、感情を揺さぶられるものであり、最終的には抗しがたいものとなるのです。



©Etienne Charbonnier

ステファン・フージェ Stéphane Fuget (音楽監督/チェンバロ)

チェンバロをクリストフル・セ、ピエール・アンタイ、トン・コープマン、指揮をニコラ・ブロジョのもとで学ぶ。パリ国立高等音楽院をチェンバロと通奏低音、ともに満場一致の1位で卒業後、デン・ハーグ国立音楽院を卒業。ブルーージュ国際古楽コンクール入賞(チェンバロ部門)。チェンバロ奏者として多くのアンサンブルや歌手との共演を重ね、名声を確実のものとしていく。声楽指導者としても才能を発揮し、アンネ・ゾフィー・フォン・オッターの希望でフランス・バロック音楽のスペシャリストとしてフランクフルト歌劇場でのシャルパンティエ《メデ》の上演に参加。また、自身も指揮者として多くのバロック・オペラの上演を行う。若い演奏家と活動するという彼の希望に端を発して、パリ地方音楽院において声楽指導とバロック・オペラのクラスを持つ。バロック解釈の新たなビジョンを提示すべく、2018年、声楽カンパニー「レゼポペ」を創設。オペラや合唱曲など大編成の作品から歌曲まで幅広い作品を演奏するほか、マスタークラスも開催している。今回は小編成によるフランス宮廷歌曲の演奏で緊密なアンサンブルを聴かせる。



©Sebastien Brohier

クレール・ルフィリアートル Claire Lefilliâtre (ソプラノ)

歌やバロック時代の解釈への情熱から、歌をアラン・ビュエ、ヴァレリー・ギヨリ、バロック朗唱法とジェスチャーをウジェーヌ・グリーン、バンジャマン・ラザールのもとで学ぶ。身体と声との関わり的重要性を意識し、パリの国立アレクサンダー・テクニクセンターのディプロマコースにてアニエス・ド・プリュノフに師事。17世紀のフランスとイタリア音楽についての解釈の第一人者として知られている。ル・ポエム・アルモニークをはじめ、数多くのオーケストラやアンサンブルと共演。オペラではリリ《町人貴族》《カドミュスとエルミオーヌ》、カヴァッリ《エジスト》などに出演。オペラ、歌曲にとどまらず、異なる芸術の世界と融合させたプロジェクトなどにも関心を持ち、幅広い活動を展開している。北とびあ国際音楽祭2022ではリリ作曲 オペラ《アルミード》公演にも出演しタイトルロールを歌う予定。



エマニュエル・ジラルド Emmanuel Girard (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

パリ・ソルボンヌ大学で美術史、ラングラー=フランス国立東洋言語大学で日本語を学び、パリ国立高等音楽院をチェロ、室内楽共にブルミエプリで卒業。卒業後、同音楽院の古楽器科において、バロックチェロと通奏低音を学ぶ。横浜国際音楽コンクール審査員。ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者でもある。現在、桐朋学園大学音楽学部の特任教授として、チェロ、ガンバ、室内楽の指導を行っている。宮城学院女子大学音楽科非常勤講師。CDはバッハの無伴奏チェロ組曲「20th Century Folk Cello Solo」(共にN.A.T)、創設メンバーであるアンサンブル マレラで、フォルクレの組曲をナミレコードより好評発売中。アンサンブル マレラのシュベールの室内楽作品、マレー異国組曲のCDをリリース。

※曲目、演奏順、出演者は変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

※車椅子席をご希望の方は発売日より下記お問い合わせ先にてご予約ください(数に限りあり)。
※未就学児の入場はお断りしております。
※託児サービス(2歳以上の未就学児、1人2,000円)をご希望の方は発売日より11/11(金)までに、イベント託児・マザーズ0120-788-222(平日10:00~17:00)へお申込みください(※定員に達した場合、早めに締め切る場合がございます)。
※開演中に入場される場合は、お求めいただいたお席ではなく、係員がご案内するお席でご鑑賞いただけます。入場までしばらくお待ちいただく場合もございますので、あらかじめご了承ください。
※会場内での許可のない写真撮影・録音・録画などはお断りしております。
※本公演は公演内容を考慮し親密な空間でお楽しみいただくため、1階席のみの販売といたします。

お問い合わせ (公財)北区文化振興財団 / 03-5390-1221
▶ <https://kitabunka.or.jp/>

■ 北とびあ国際音楽祭アドバイザー / 大石 泰(音楽プロデューサー) 木村 元(編集者・アルテスパブリッシング代表) 関根 敏子(音楽学) 田中 隆文(邦楽ジャーナル編集長)

北とびあ国際音楽祭の情報を発信中!



@HIMF_info

北とびあ国際音楽祭 特設ホームページ



北とびあ国際音楽祭
2022全公演の情報は
こちらで紹介!

北とびあ

東京都北区王子1-11-1
JR京浜東北線王子駅北口
東京メトロ南北線王子駅
下車徒歩2分

